

日中友好新聞

京都府連版

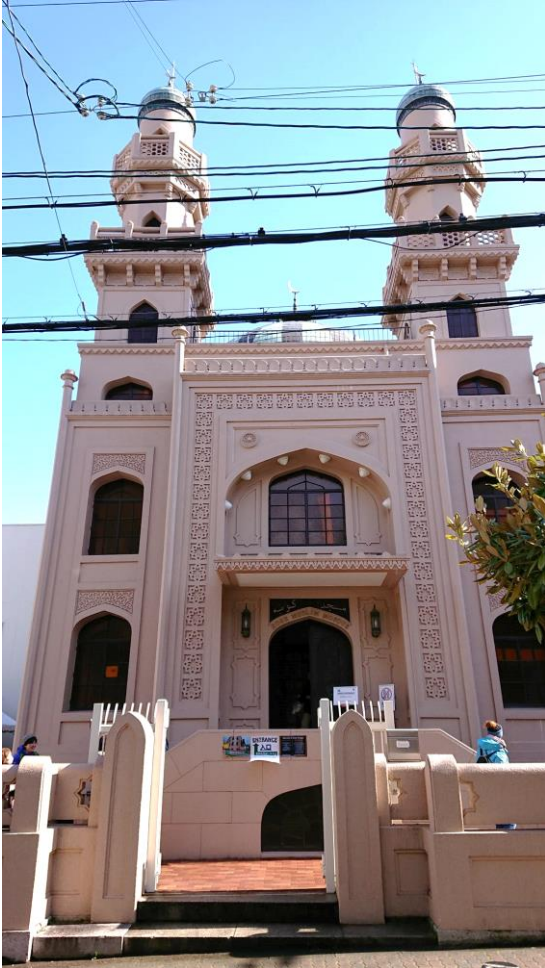
第333号

日中友好協会京都府連合会

〒602-8026 京都市上京区新町通丸太町上ル 機関紙会館ビル302号
TEL&FAX 075-256-2764 nichukyoto.com info@nichukyoto.gr.jp

宇治支部 神戸フィールドワークに参加して

三月二十日、春分の日に宇治支部メンバーを中心に神戸フィールドワークを実施しました。このフィールドワークは立命館宇治高等学校の大川先生（社会科）が生徒と実施したものを日中友好協会版として計画してくれました。13:00にJR三ノ宮駅集合の予定でしたが、事故と天候の関係で電車の到着が大幅に遅れました。傘が裏返るほどの強風の中、生田神社近くのモスクへ移動しました。周囲は韓国領事館、中華料理の店、中華の食材店、ベトナム料理、ハラールのレストランなど異国情緒漂う場所で、近くを通ると食欲がそそられる香りがしました。モスクの入り口は男女別になります。パキスタンから来られた方から説明を受けました。モスクは一九三五年にチェコの建築家によって設計され建てられました。神戸の空襲では周囲は焼け野原となりましたが、モスクだけは残りました。阪神淡路大震災でも生田神社の鳥居が倒れるなど周りの家は被害を受けましたが、モスクは無事で避難所にもなったそうです。ステンドグラスは一九三五年のまま、歴史の重厚さを感じました。（二面につづく）



第50期中国語教室開講記念講演会のお知らせ

「中国語の書面語を学ぶ楽しさと重要性—中上級学習者を目指して」

講師：長谷川賢先生 立命館大学経済学部准教授

日時：4月6日（土）14時から16時

会場：同志社大学今出川キャンパス良心館 RY413

参加費無料 関心のある方はどなたでもご参加ください。



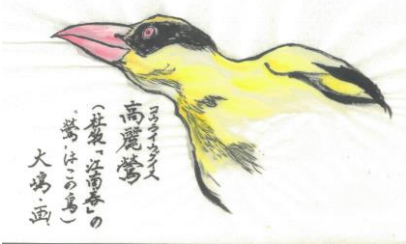
モスクの見学後は南京町へ向かいました。南京町の臥龍殿で南京町商店街振興組合の理事長、曹英生さん（豚まん店「老祥記」の三代目経営者）から南京町のお話をいただきました。明治時代の話から始まり、戦後の米兵向けのバーが立ち並ぶ治安の悪い街だった時代、神戸ポートピア博覧会前後から春節祭の開催などで整備された時代、そして阪神大震災ではいち早く炊き出しを始め復興をリードしてきた話などをしていただきました。復興に当たって「自粛を自粛しない」「お金の話を遠慮する日本人とお金は大切なもの」としてタブー視しない中国人」という考えは興味深いお話でした。質問タイムにはたくさんの質問が出ました。特に新華僑と老華僑の関係、横浜中華街の話など、新たに知ることが多かったです。曹さんのお話の後は老祥記で豚まんを買って、南京町で一番古い中華料理店、民生で水餃子などを食べ、紹興酒をいただいて帰りました。（石田）



中国語教室交流会の報告

三月十九日（火）午後二時から府連事務所、中国語教室の講師と受講生の交流会が開かれました。参加者は十人でした。お茶とアモイ旅行のお土産のお菓子などをつまみながら、中国語を使った単語あてクイズや人物あてのクイズでひとしきり盛り上がった後、自己紹介や、中国語に関する質問などで楽しいときを過ごしました。ご案内がおそかったせいか受講生の参加が少なかったのは残念でしたが参加者は4月からさらに中国語を学ぼうという意欲をおおいに刺激されたことと思われ

ます。（橋本草子）



全国事務局長会議で痛感したこと

左京支部事務局長 横地 豊

三月八日会議の前にリアルな全国の組織状況の資料がオンライン参加者に配布されました。私はその日中の全国組織表のリアルな数字を見たときに愕然としました。特に二四年三月現在、会員で東京1,029名、関西五府県合計895名（大阪、京都、兵庫、和歌山、奈良、滋賀）、準会員で東京512名、関西合計599名でした。関西全部でも東京に負けています。かつて全国を引っ張った関西の凋落ぶりは明らかです。九四年には会員は東京1,029名、関西1,009名、準会員は東京703名、関西1,256名でした。この間、東京はほとんど変わらないのに関西が大きく後退して、全国の組織後退の大きな後退の要因をつくっています。

三月十日の会議当日は十時から十七時までのハードなスケジュールでしたので、オンラインの参加の利点を生かして（ビデオやマイクをミュートにして）、リラックスして報告や発言を聞いていました。やはり本部報告より参加者発言は大変参考になりました。とくに東京が多く支部同士が競争しつつ、片方で連帯しながら多くの成果を上げているのが印象でした。特に京都大から慶応大に移られた大西広先生が当時（二〇一二年）港支部に所属した際、会員・準会員で二十名足らずであったのを、事務局長に就任して以後、現在五十名の組織されたことは印象的でした。また逆に山梨や苫小牧（北海道）の支部が、孤軍奮闘で、日中の旗を長く守られていることに感動しました。そのため、当初、私も地域支部の困難さ①高齢化②支部還元金

③組織の広域化) について発言しようと準備していましたが、会議で活発な発言を聞く中で、ネガティブな発言をするのはやめて、参加者の発言を聞く側に徹するようにしました。全国の支部事務局長は日中友好の信念のため、長年ボランティアでよくやってくられています。本当に頭が下がります。このことをもつと中国の皆さんにも知ってもらいたいとつくづく思います。

全国事務局長会議に参加して

三月十日に全国事務局長会議がありオンラインで参加しました。午前中に全国のいくつかの支部からの発言の時間があり、その一つとして宇治支部からも報告をさせていただきました。七分間という限られた時間で、私が発言したのは、おおよそ以下の通りです。

宇治支部は、一昨年の十二月に発足した新しい支部です。以前にも宇治支部はあったので、その頃から入っていた会員、支部消滅以降入った会員、今回新たに入った会員で協力してできました。宇治は、隠元和尚の黄檗山万福寺に代表されるように、中国と古くから所縁のある土地です。昨年夏頃からは一回の打ち合わせをするようになり、月一回の企画をするようになってきています。五月、旧遊郭訪問、八月、支部長の別宅訪問、十月、宇治散策、十一月、奈良般若寺の長谷川テルの碑見学、十二月、忘年会、一月、宇野木会長の中国訪問のお話、二月、春節の集いなどをやってきました。今後の課題は、企画を通して会員を増やすことであり、そのためにも他の団体や支部との連携もしていきたいと思っています。

全体として感じたのは、協会の宣伝としてホームページが大事で、そういう意味では京都府連はがんばっていると思いました。早速他府県の方からホームページとSNSについて問い合わせがありました。

(石田)

中国の山旅(16) 西谷仁

中国の菜の花畑を見に春節に広西チワン族自治区の百色に行った。カルスト地形の山と山の間はすべて一面の菜の花に埋めつくされていた。そして行けども行けども菜の花の海に蜜蜂の養蜂がされていた。中国は菜の花の多い国だが、このように800度菜の花の景色は初めてだった。小高い鐘乳岩の山に登ると、そこから見える景色はすべて黄色に染っていた。



《中国伝統劇つれづれ》第十一回 パンフレット 藤野真子

一九九〇年代の上海といえば、地下鉄は街の中心を南北に貫く一号线のみ、留学先の復旦にはかすりもしなかった。足繁く通った天蟾逸夫舞台までは、大学の近くから五十五路のバスに五十分ほど揺られ、外灘で降り、福州路を人民広場まで歩く。五十五路乗車中、渋滞に巻き込まれ、蘇州河の手前で開演三十分前になることもあった。筆者が民国期の戯迷ならば、最良の出る演目に間に合えばとのんびりするところだが、いかんせん修行中の身、観られるものは何でも観ておかねばならない。車中で焦りながら、劇場へギリギリ駆け込んだ時のシミュレーションをする。売店で飲み物を買って、戯単を買って中に入って、もし自分の席を占拠している客と押し問答になったら、さて上海語でどう言おうか……

街の北東にある復旦に在る限り、上海のどの劇場へ行くにも時間がかかる。タクシーを使う金銭的余裕は無かったので、いきおいバス頼みとなる。筆者は地図を眺めるのが好きで、初めての劇場へ行く時は何路に乗れば目的地近くまで行けるのか、路線図を傍らに考えるのも楽しみの一つだった。かなり早く現地に到着した時、劇場近くに美味しい小籠包の店を見つけたこともあった。

芝居がはねたら、宿舎に帰らねばならない。夜十時前後ともなると、さすがの上海も人通りは少ない。こと冬になると、幾度も往復した福州路であっても、

風の強い外灘に向かって行くのは物理的に寒いだけではなく、わびしい。心身ともに冷え切る前に早く五十五路に乗って、舞台の熱と余韻に浸り直したいものだと思いつつ、歩いたものだった。

天蟾は人民広場の傍にあるため、近くにバス停も多い。ある日路線図を眺めていると、西藏路を北上して魯迅公園で乗り換えるルートを使えば、復旦まで行けることが分かった。幸い、本数も多い。これなら冬場でも冷える心配はない。今でも、乗り換えの魯迅公園に着いた時の、だいぶ近くまで戻ったという安堵感を思い出すことがある。

二〇〇〇年代の在外中は、地下鉄の路線も増え、浦東の劇場でもスムーズに往復できた。職を得たので、早く帰りたいときはタクシーを選択することもできる。もともと、宿舎に帰っても、留学中とは違いルームメイトはいない。寂しさを紛らわすために、国营放送の戯曲チャンネルをつけて、歴史ドラマの再放送を観るのがルーティンになってしまった。

(ふじの なおこ・関西学院大学教授)



再放送で観たドラマ『大宅門』。京劇の場面も

コロナ禍の台湾研究活動道中記(第24回) ビザ切り替え手続き(その2)

高橋 孝治

前回までで、居留のためのビザ取得のためには、まず台湾の外交部(日本の外務省に相当)のビザセンターにビザ申請書に添付する健康診断結果を取得する必要がある、この健康診断結果は、外交部が指定した病院を行う必要があることが分かったという話をしました。

その日は、移民署にも寄ってから外交部ビザセンターに行っていたため、もう時間も遅くなっており、とりあえず家に帰り、翌日、台湾で借りた家の近くの外交部指定の健康診断に対応している病院に行くことにしました。



筆者が健康診断のために行った病院

しかし、病院に着いて話を聞くとなんとビザ用の健康診断を行うには、まず予約が必要で、しかも直近で健康診断が行えるのは(予約が取れるのは)、「五月三日だ」と言われました。このときは、まだ四月六日でした。つまり、約一か月健康診断ができないというのです。筆者は驚き、「急いでいるんだ。明日か明後日には健康診断はできないのか」といろいろと病院の予約担当の方と問答をしました。しかし、どうしても「できない」というので、仕方なく、五月三日の健康診断の予約を入れて、病院を後にしました。

そして、家に帰って、台湾フェローシップの担当者、事情をメールで連絡しました。それに対する返信としては、以下のようなものでした。「問題ない。居留のビザが取得できたら連絡をしてくれば、それでいい。本来は、台湾入境後、一か月以内に居留ビザを取得してもらう必要があるが、コロナで入境後、隔離されていて一か月以内に新たなビザを取得することは不可能だから、そこは現在目をつぶっている」。この言葉のお陰で、特に台湾内での居留ビザの取得は急ぐ必要はないのか、と一時は思いました。しかし、その後、また台湾のフェローシップ担当の違う方からもメールが来ました。いわく、新しく台湾に入境した外国人研究者に毎月の報酬を支払うから、銀行口座などについて教えてほしいということでした。これについて、銀行に一度は口座を作りに行ったのですが、これまた以下のようなことを言われました。

台湾で銀行口座を作りたい場合は、まず外国人登録証のコピーを提出せよ、外国人はそれを確認して

から、銀行口座が開設できる。しかし、台湾で外国人登録証を作るには……（続く）

（2022年台湾フェローシップ採択者・（元）台湾・

淡江大学 日本政経研究所 訪問研究員（2022年）／

「高橋孝治 中国」でウェブを検索！



【お知らせ】第1回「長谷川テル訪問記念の碑」碑前祭のご案内

第一部 碑前祭（上村牧場の受付で般若寺入山料 500 円集めます）

- ・ 4月20日（土）午後1時～2時
 - ・ 集合場所：植村牧場研修室（般若寺の西側）
 - ・ 主催者あいさつ、「希望の鳩 ヴェルダ・マーヨー長谷川テルの歌」の合唱、
 - ・ 祝辞 「碑」制作者・坂口紀代美氏、「碑文」揮毫者・井口和子氏
大阪・長谷川テル顕彰の会代表
- 般若寺境内に移動
- ・ 般若寺住職のあいさつ「山吹の花」の献花

第二部 全国交流集会

- ・ 4月20日（土）午後3時～5時 植村牧場研修室
- ・ 講演：山本恒人「戦火絶えなき世界に、輝きこだまする長谷川テル女史『反戦放送』」
- ・ 奈良・長谷川テル顕彰の会の報告と提案・田辺事務局長
- ・ 参加者の発言

主催：奈良・長谷川テル顕彰の会 TEL/FAX 0742-61-7194（田辺方）

書呆子（中国語で「本の虫」という意味）

「文学が裁く戦争」東京裁判から現代へ 金三
ノン・岩波新書・2023年11月17日刊・226P
十略年表3P

「はじめに」より…「戦争を裁くもの」 裁判が進行していた同時代から、終了して七十年以上の歳月が経った現在に至るまで、多くの文学者が描き続けてきたことにこそ注目したい。その作品の数は、膨大である。……問わなければならないのは、過去に既に判決が出て終わったはずの裁判を、文学の形態で呼び戻した意図であろう。……過去の法廷ではいかなる席も用意されていなかった被害者たちが、長い年月を経て沈黙を破り、暴力の経験語り始めた際、誰が裁判を過去に属するものだと叫ぶのだろうか。声をあげる、暴力を訴える被害者の告発がある限り（筆者注）裁判はどのような形であれ、幾度となく呼び戻されるのである。……戦争犯罪の追究を継続し、過去の裁判をやり直すために、文学が用いられたのではなかっただろうか。……何を裁くか ●実際の法廷に登場した人物や、問題にされた事項だけが、文学の対象になるわけではない。寧ろ現実では重要視されなかった人物や出来事に注目し、想像力をめぐらすことこそ、文学（フィクション）が得意とするところである。……こうして裁判の何を描いたかを見ていくと、作家が選択したことと選択しなかったことが、明確に見えてくるだろうし、そこから夫々の政治性を議論することも可能になるだろう。……「いかに裁くか」……本書では、ジャンルのな特徴を、作家たちが選んだ表現方法として重

視する。……「なぜ裁くか」……本書で扱う作品には、敗戦直後に書かれたものから、近年書かれた作品まで、七十以上の時間の幅がある。……東京裁判から選び取られた場面は、全く異なる文脈における、作家が生きていた時間や作品が書かれた同時代においては、想像すらできなかった意味を帯び始めたに違いない。本書が、敗戦直後から時代順に戦争裁判を描いた作品を選んでいくのも、そのためである。……裁判関係の資料が新たに発掘され、歴史の記述が更新されると連動して文学作品も書かれていくので、公正に評価するためにも同時代の状況は参照されねばならないのである。……以上のことに留意しながら、これから戦争裁判を描いた作品を読み、文学に戦争を裁くことができるのか、という本書の問いに答えていきたい。

目次から…川端康成に始まって二十三人の作家と作品が取り上げられている。そして、終章の第七章は、戦争裁判を描いた日本文学の現在と、再審としての読み―世界文学へ、となる壮大な視野を持つ新書になりえています。千円強の本ですが、感情論に走らず、研究者としての自負も末尾に遠慮がちに書き込んだ貴重な本といえます。参考文献は、九十七冊、図版七点。私は、立命館大学国際平和ミュージアムのガイド力向上の一つの方法として、各章ごとの未読本を、急がずに順次読み進めようと思に至りました。皆様は、どうされますか？

（中本 学）



中国人と自己主張

日本人の中には、「中国は言論の自由がない」と思っておられる方がかなりいると思います。確かに政治批判などしにくい面はあります。しかし、私が中国に行つて学んだことは、「自己主張」だということも確かです。

私は、北京で暮らすようになって、まず、故宮を観に行きました。団体の旅行者が大勢訪れていました。「広いなく」とぼんやりたたずんでいると、突然、「タバコ吸うなって言ってるやろー」という女性の怒声（関西弁ではなくもちろん中国語）が響き、驚いてふりかえると、少し離れたところで、小柄な女性ガイドの前で、恥ずかしそうにタバコをもみ消している大柄のおじさんたちが見えました。故宮でタバコ吸うなんて、絶対してはいけない行為ですが、それにしてもそのガイドさん、細い体のどこからその声が出るのかと笑ってしまいました。ちなみに、私が習っていた大学の先生はすべて女性で、さすが、中国は女性の地位が高いと感心していました。

一方、北京の「おじさん」といえば、夏、お腹を丸出しにしながらずらつと並んで客引きをしている黒タクの運転手さんの印象は強烈でした。ガイドブックには、「黒タクに注意」と書いてありますが、実は私は、黒タクのお世話になったことが何度かありました。

ある時私は、アヘン戦争の時の大沽砲台を見に、天津まで足を延ばしました。（なぜアヘン戦争なのか

というのは、また機会があれば書きます）そこは博物館もあり、私にとっては印象深い場所だったので、（当然のことながら？）参観者はほとんどなく、帰りはバス停までいぶ歩かねばなりません。仕方ないかと暗い気持ちで出口を出たら、そこに、救世主のように黒タクがいました！

黒タクに乗るには、初めに、運転手と話し合つて料金を決める必要があります。料金は高めですが仕方ありません。その人は、平日は普通に働いていて、休日は、黒タクで小銭を稼いでいると言っていました。軽軌（モノレールで途中から地下鉄になる）の駅まで行つてもらおう約束をしたのですが、もっと近い駅があつたようで、「ここからでも乗れるよ」と言つて、なんと、指定した駅とは別の駅の前で降ろされました。でもまあ、ちゃんと軽軌には乗れて帰れたので支障はなかつたと言えます。

北京から日本に帰つてからも、ちよくちよく中国には行きました。香港から船に乗つて広東の虎門に行つたことがあります。船から降りると、ずらつと黒タクのおじさんたちが並んでいて、客引きをしていました。私は、バスに乗ろうと思つていたので、おじさんの誘いに「不用」とはつきり大きな声で断つたつもりだったので、やはり私の声は迫力がなかつたのか、おじさんは、しつこくずつとついてきました。そして、方向オンチの私は、バス停を見つけれず、結局、その黒タクに乗りました。料金を決めて、行きたいところを回るといふ約束をしました。初め私は緊張していましたが、そのおじさんは普通語をしゃべれたので聞き取りやすく、私の中国語がスローだったので、笑われて、場がなごみ、

だんだん仲良くなり、楽しく過ごせました。ところが、観光が終わり、ホテルに連れて行つてとバウチャーを見せたところ、バウチャーには英語のホテル名しか書かれておらず、英語のわからないおじさんにはわかりません。しかも、彼は、地理は熟知しているくせに地図も読めない様子で、私は困つてしまいました。そしたらおじさんは、「ぼくの知ってるホテルに連れて行つてあげる。いいホテルだよ。予約したところは、まだ代金払ってないんだろ」と言い出しました。私はあきれて「日本人は、礼儀を大事にする。そんなドタキャンはしない」と言つてしまひ、おじさんは、「中国人は礼儀がないってか」と悲しそうに言い返したので、私はどきつとして、一瞬後悔しましたが、すぐ、「いや、礼儀ないのは、中国人というより、あんただけやろ」と心の中で突っ込んで立ち直り、「そんなこと思つてないよ」と慰めてあげました。そんな漫才のようなやりとりのあと、結局、電話番号がわかつて、おじさんがそこに電話し、ホテルの中国名と場所がわかつて、無事、チェックインすることができました。

今から思うと、私の遭遇した黒タク運転手のおじさんたちは、休日も返上して（違法に？）働いて、こまごまと小銭を稼いでいる人情味がある人たちだったなと懐かしく思います。でもまあ、黒タクはできれば乗らない方がいいですよ。

こんなふうに、中国で生活するためには、自己主張は大切です。私は中国に行く前は、結構優柔不断なところがありました。北京語学留学から帰つてから、即決力がつき、自己主張もするし、強くなつたかなという気がします。（不定期につづく）

〔時の焦点〕

兩岸関係シンポジウム「台湾有事」を起こさせないために

日中友好協会本部が主催したシンポジウム『台湾有事』を起こさせないために」が、3月9日、東京会場とオンライン併用で開催された。

(一) シンポジスト四氏の報告

シンポジストと報告タイトルは以下の通り。井上久士「近現代史から見る台湾と日本」、岡田充「作られた『台湾有事』」、山本恒人「『台湾有事』を起こさせないために」、上里賢一「東アジアの安定こそ、沖縄の生きる道」。コーディネータは大西広さん。

井上久士さんは、一五〇年前の日本の台湾出兵から説き起こして、第二次世界大戦の結果、台湾が中華民国に接収され、さらに中国と台湾が対峙する五〇、六〇年代を経て、七〇年代以降日本、アメリカが中国と国交を回復して「一つの中国」を承認する過程を概説した。

岡田充さんは、近年の同盟国を巻き込んだバイデン政権の対中包囲網の構築プロセス概括し、「台湾有事」がアメリカの中国政策に従って意図的に焦点化された危機であることを明快に解説した。その上で、中国は「現代化建設」のために「平和な国際環境」を必要としており、中台統一の優先度は低い、仮に武力を行使して台湾を制圧しても、それに伴うデメリットが大きい、アメリカは台湾有事でもウクライナと同様「代理戦争」によって台湾・日本と中国を戦わせようとしている、したがって台湾問題で日本は矢面に立たされて、梯子を外される恐れがあるこ

となどを指摘した。

山本恒人さんは経済的な観点から、アメリカの一極支配は終わりつつあり、購買力平価ベースではすでに中国の後塵を拝している、逆に台湾は「後発の利益」を生かしてNEOSの中でも経済抜群の発展を遂げており、中国はそうした台湾をリスクペクトしている（台湾同胞に告げる書「1979/1/1」）など、中国が今後、さらに発展するためには「国際関係の安定が」不可欠であって、その中で合意形成と民主的手段で台湾問題を解決することができる、その意味で中国の統治能力が本場に試される時代だと指摘した。

上里賢一さんは沖縄から見た「台湾有事」、台湾をめぐって軍事的対立が深まることで沖縄がいかに危険な水準にあるかを具体的に述べた。岸田政府は先島（宮古諸島・八重山諸島）を戦場にしてもよいと考えている、これら諸島にはこの数年間の間に自衛隊駐屯基地、弾薬庫の設置、ミサイルの配備が急速に進んでいる、もし台湾有事が起こったら海に囲まれた島嶼に逃げ場はなく沖縄は破滅する、だから戦争を起こさせないための対話と外交に全力を挙げて取り組まなければならないと述べた。

(二) 「台湾」をめぐる議論に対する新しい視点

今回のシンポジウムではこれまで協会のベシツクな認識から一步進んだ見解がいくつか示されたと考ええる。そしてそれらは今後議論を深めていくために有用だと思われる。ここではそのいくつかを筆者の解釈を交えて書きとめておきたい。

(1) 台湾有事は中国の内政問題なのか

上里さんは台湾をめぐって米中が緊張した時、日本は「日中共同声明」「平和友好条約」に従って対応

すべきだとして次の文章を引用する。「すべての紛争を平和的手段によって解決し、武力又は武力による威嚇に訴えないことを確認する」。これは先ず日本政府が守るべき規範であるとともに中国政府の行動を縛る国際約束でもある。従って中国が台湾に武力行使した場合、台湾問題は中国が主張するように「内政問題」の枠を超えた国際問題であり、単純な「内政問題」ではなくなるということでもある。

(2) 台湾の「現状維持」とは何か

山本さんは「台湾の民意は独立ではない」と述べる。確かに民進党だけでなく国民党も「現状維持」であり、それは大多数の台湾人の民意を踏まえていると言える。独立のためには現行「中憲法」を廃して新しい「台湾共和国憲法」を、国民投票を経て制定する必要があるという高い法的、制度的壁もある。

それでは独立ではなく統一でもない現状維持とは何か、それはどのような歴史や国際関係によってもたらされているのか、台湾人の自主的主体的な選択なのか。近代史の中で培われた台湾人のアイデンティティについて理解を深める必要があるということであろう。

(3) 「独立」と「統一」の間を考える

シンポジウムのコーディネータを務めた大西さんも行司役をこなしながら重要な発言をしていた。

一つは、中国はかつて（例えば一九七二年「米中共同声明」）「台湾解放」と言っていたのに近年は言わなくなったと指摘し、その姿勢に疑問を呈していた。それは「台湾問題」の性格が質的に変わってしまったことを中国が踏まえているからだと言わざる

サロン 中国百科検定沙龍

中国百科検定の勉強会をします
毎月1回第2土曜日 12:30~14:00
京都府連事務所にて

第1回めは、4月13日(土)です。
参加費無料!

受験する人もしない人も、気軽にご参加ください。中国のことを学ぼう!

を得ない。かつては中国の統一と主権をめぐる共産党と国民党の闘争であったので、台湾に逃亡した国民党から台湾を奪還することは「解放」であった。しかし今は一九八〇年代以降の民主化プロセスを経て、制度的にも民意においても国民党が独裁する台湾ではなくなくなった。大西さんが言うように台湾人が「何を期待しているのか」を基準に考えた時に「新たな枠組み」が必要であろう。「外交権を持つ特別自治区」や「独自の軍隊は持たないが、それ以外ほとんど『国』と変わらない特別自治区」を大西さんは例示している。

かつて台湾を植民地としてきた日本としてわきまをえなければならぬことはある。しかし台湾問題は日本と東アジアの平和と安全にとって極めて重要な要素でもある。この地域の軍事的な緊張緩和や安全保障体制の枠組みの構想に、言葉の本来の意味の「積極的平和主義」の立場から発言することは日本人の責任でもあると考える。

(斎藤)

【お知らせ】

会員さんの作品もあります♪

京楽文化サロンと仲間たち展

会期 2024年4月23日(火) ~ 28日(日)
am10:00~pm18:00
(オープニング23日(火) 14:00~オカリナ演奏と合唱団演奏)
※最終日17:00閉場 (入場は閉館の30分前まで)

会場 京都市美術館 別館 1F
京都市左京区岡崎最勝寺町13 TEL 075-771-4334
ホームページ <https://kyotocity-kyocera.museum/>

アクセス

市バス「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分
地下鉄「東山」駅下車、徒歩約10分



【お問い合わせ】
京楽文化サロン
安本俊昭
090-9612-9068

私の当番予定表

	4/23	24	25	26	27	28
午前						
午後						

中国全土が泣いた— 6300キロの旅で見た、激動中国の10年。



劇場版

再会长江

会いに行く。



制作期間10年のドキュメンタリー大作。
フォロワー数1000万人の日本人監督が撮った、
テレビが伝えない中国とは。

監督 竹内亮
ナレーション 小島博子
制作 株式会社GADOKORO

アップリンク京都(新風館)にて
4月12日(金)より上映

★帰国者2世署名は、各支部または京都府連までお願いします。京都府連は5月30日締め切りです。(6月10日に請願署名提出予定)

みなさんのご協力どうかよろしくお願ひいたします。

★京都府連帰国者委員会では、京都選出の国会議員の事務所をまわり、請願署名の賛同議員のお願いをしています。後日ご報告します。

